

## C-1 指導案（単元指導計画の工夫）

### 1. 単元名 武家政治と東アジア

#### 2. 単元の見どころ

- (1) 武家政権の成立とその後の政治、社会の動きに対する関心を高め、意欲的に学習しようとしている。  
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色や文化の特色を多面的・多角的に考察している。  
(社会的な思考・判断)
- (3) 中世の社会の変化、文化の広がりや東アジアとのかかわりに関する図版、史料、年表、歴史地図などのさまざまな資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、中世の日本の動きを政治・経済・対外関係・文化などの項目に分けて考察し、新聞にまとめたり説明したりしている。  
(資料活用の技能・表現)
- (4) 武家政権の成立と武家社会の発展や文化の広がりを、東アジア世界とのかかわりを背景に理解し、その知識を身につけている。  
(社会的事象についての知識・理解)

#### 3. 指導にあたって

##### (1) 教材観

本単元では、鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会の変動を通して、武家社会の成立とその後の展開について学習する。武家社会の特色を考えさせるとともに、東アジアとのかかわりについて理解する単元でもある。

本単元の前では「古代」を学習し、仏教の力により天皇や貴族を中心としての国づくりを学んだ。天皇が絶対的な権力を保持していた時代から、私有地である荘園を中心に政治の仕組みも変化し、「摂関政治」や「院政」など天皇以外が国を治める制度ができはじめた。そして、荘園を守るための「武士」が活躍し、やがて本単元の「中世」では、武家政権が成立する。

武家政権は、「土地」で結ばれた「封建社会」であった。命をかけて戦う武家社会の文化は、その後の日本人の気質に大きな影響を及ぼしており、当時の武士や民衆の活力を背景に生み出された新たな文化であった。そして、その後の戦乱の時代を経て、江戸の新しい形の封建社会が形成されたことにつながっている。また、中世の社会の仕組みの変化は、東アジアとの関係が大きく、「元寇」によって鎌倉幕府の封建制度が崩れ、日明貿易での明との交流や琉球との交流が、その後のヨーロッパ人の来航にも影響を及ぼしている。

このように、本単元は天皇や貴族が変わって武士が台頭し武士の社会が広がっていく中で、政治や文化、社会の様子が大きく変化する点において、生徒は興味を持つであろう。

##### (2) 生徒観

このクラスは、男女を問わず歴史に対して苦手意識を持っている生徒が多く、授業において活発な発言はあまり見られない。しかし、復習などをしっかり行い、学習に対して意欲を持って取り組んでいる生徒もいる。発言を苦手としている理由として、資料の読み取りが十分に出来ず、自分の考えに自信が持てないということが考えられる。そこで、「古代」の学習では、導入で教科書に大きく取りあげられている図や写真を活用した。ただ、図や写真には興味・関心が高いが、資料の中に文字が入るとその段階で読み取る活動がストップしてしまう生徒が多く、学習に深まりがない。

「鎌倉時代で知っていること調査」の結果では、たくさんの生徒が年号の覚え方を知っており、次に多かったのが「源頼朝」「義経」である。しかし、この言葉を覚えている生徒は半数以下で、それ以外の言葉は調査では出てこなかった。「原始・古代」と比べ、短い期間の中に多くの出来事が起こるが、それらを歴史の流れの中の一部としてとらえることが出来ないようである。

### (3) 指導観

本単元では、人名や出来事、文化などについてその場面その場面の中だけでとらえさせるのではなく、時代の大まかな流れや出来事の因果関係が説明できるように学習を進めていきたい。そのために、各時代の最初には必ず教科書の「タイムスリップ」のページを活用し、その時代の様子を大まかにとらえさせたり、他の時代と比較させたりする。また、鎌倉時代では「幕府の信頼度グラフ」をワークシートとして準備し、大きな出来事ごとに御家人の立場で記入させ、時代の流れを意識させながら学習を進めていく。授業で提示する資料も、大きな掲示物にしたり、プレゼンテーションを活用したりして、視覚的にも興味を持てるようにする。なお、それらの資料は、以前の学習を振り返る手助けとなるよう教室に掲示していく。

また、単元のスタート時に、まとめとして「中世歴史新聞」を作成することを提示しておきたい。単元のまとめの学習としてどのようなことをするのか知らせておくことは、生徒に授業の1時間1時間の目的意識や、「より調べたい」「より知りたい」といった自ら学ぶ意欲を持たせることにつながる。

学習形態の工夫としては、学習内容によってペア学習やグループ学習を取り入れる。自分の考えだけでは自信が持てなくても、お互いの意見を出しながら考えを深め合う話し合い活動を行うことにより、一人一人の生徒に自信を持たせることが出来るようになる。

### (4) 研究とのかかわり

この単元では、活用力の基礎となる様々な資料を読み取る力を育てることを中心に進めていきたい。そのために大切になるのが、研究主題の副題にある「関心・意欲を高める授業を基盤として」である。資料を提示しても、「関心」を持つものでなくてはならない。また、知りたいという「意欲」がわくものでなくてはならない。そこで、導入では、わかりやすく多くの生徒が興味を持つ資料を提示する。そして、**ひとつひとつ**の資料の読み取りを丁寧に行い、情報の取り出しが正確に行えるようにする。また、提示の方法も、2つの資料を比べたり、資料の中からキーワードとなる用語を探したりと、いろいろな資料の読み取り方を取り入れながら、資料から課題を解決していくことを積み重ねる。授業の最後には、自分の言葉でその授業をまとめる活動を取り入れる。具体的には、様々な身分の人たちの立場に立ってそれぞれの思いを自分の言葉で表現させ、歴史上の出来事と生徒自身をつなげる活動や、1時間の学習内容を一言で表現する活動である。単元の最後には歴史新聞を作成し、学習で身につけたことを他の生徒に発信する活動にしたい。

4. 指導と評価の計画（総時数14時間）\*特に活用力を高めた学習

| 次 | 時 | 学習活動   | ①社会的事象への<br>関心・意欲・態度  | ②社会的な<br>思考・判断  | ③資料活用の<br>技能・表現  | ④社会的事象につ<br>いての知識・理解  |
|---|---|--|---|---|--|---|
| 一 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「タイムスリップ」から武士の役割を考える。</li> <li>武士が権力を持つようになった過程をまとめる。</li> </ul>              | 自分の抱いている武士らしさや武士のイメージ、武士の役割について意見を交換しようとしている。(観察・発言・ワークシート) |   |  | 摂関政治から院政、平氏政権へと展開していく過程での武士の存在の重要性を理解している。(発言・ワークシート)               |
|   | 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「北条政子」の演説などから、将軍と御家人が土地を仲立ちとしたご恩と奉公の関係で結びついてきたことを引き出す。</li> </ul>             |   | 将軍と御家人の結びつきを、ご恩と奉公の関係から多面的・多角的に考察している。(発言・ワークシート)                     |  |   |
|   | 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>元寇の原因と結果について、アジア地域の動きと国内の政治状況を背景に考える。</li> </ul>                              |   |   |  | 元寇が起こった原因について、アジア地域の動きを背景に理解している。(発言・ワークシート)                        |
|   | 4 | <ul style="list-style-type: none"> <li>元寇が鎌倉幕府に与えた影響について、国内の政治状況を背景に考える。</li> </ul>                                  |   |   | *元寇が鎌倉幕府に及ぼした影響について資料を読み取り、自分の意見をまとめることができる。(発言・ワークシート)                      |   |
|   | 5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉仏教の特徴を、平安仏教の特徴と比較することにより考察する。</li> </ul>                                    |   | 鎌倉仏教が中世を通して多くの人々の心をとらえて広まっていった理由を、教えの特色や社会の動きと関連させて考察している。(発言・ワークシート) |  |   |
| 二 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「タイムスリップ」から、15世紀の様子をおおまかにつかむ。</li> <li>将軍と守護の連合政権としての室町幕府の性格をまとめる。</li> </ul> | 後醍醐天皇や天皇のもとに集まった悪党の思を意欲的に追究している。(観察・発言・ワークシート)              |   |  | 室町幕府のしくみの概略をまとめ、鎌倉幕府のしくみと比較しながら武家政治の特色を理解し、その知識を身につけている。(発言・ワークシート) |
|   | 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>勘合貿易は、倭寇対策の一環であること、中国を中心とした国際関係の中で、朝貢貿易の形をとっていることをつかむ。</li> </ul>             |   |   | 倭寇の活動や、日明貿易を中心とする日本・中国・朝鮮の動きなどを、資料を収集し適切に選択して活用し、まとめたり、説明したりしている。(発言・ワークシート) |   |

|   |        |   |   |   |   |  |
|---|--------|---|---|---|---|--|
| 二 | 3      | <ul style="list-style-type: none"> <li>琉球王国とアイヌの人々を通じた交流は、東南・東北アジア一帯のネットワークの一部であったことを読み取る。</li> <li>琉球の貿易が中継ぎ貿易であったことをつかむ。</li> </ul> |   |   | 琉球の国際的役割、蝦夷地の動きなどを、資料を活用して項目ごとに分けて考察し、まとめたり、説明したりしている。(発言・ワークシート) |  |
|   | 4      | <ul style="list-style-type: none"> <li>下克上の風潮が広がったことをつかむ。</li> <li>戦国大名の支配政策についてまとめる。</li> </ul>                                      |   | 応仁の乱を契機に、室町幕府の権威が失われ下克上の風潮が広まったことを、資料をもとに考察している。(発言・ワークシート) |   |  |
| 三 | 1      | <ul style="list-style-type: none"> <li>室町時代に生まれた職業を確認し、そうしたたくさんの職業が登場した背景と影響を考察する。</li> </ul>   |   | 職業の多様化と諸産業の発達や、それが商業・交通の発達にどのように関係したか考察している。(発言・ワークシート)     |   |  |
|   | 2      | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の身は自分で守るという考えと、ヨコの結びつきから様々な一揆が起きたことをつかむ。</li> </ul>  | この時代に土一揆が多発したことに対する関心を高め、一揆を起こした民衆の要求や一揆の結果を追究している。(観察・発言・ワークシート) |   |   |  |
|   | 3      | <ul style="list-style-type: none"> <li>今日につながる庶民の文化と、その中から能・狂言や現代につながる生活様式が生まれたことをとらえる。</li> </ul>                                    |   |   |   | 庶民が仏教や文化の主要な担い手となり、今日につながる生活様式が生まれたことを理解し、その知識を身につけている。(発言・ワークシート) |
| 四 | 1<br>2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史新聞の記事の内容を、複数の資料をもとに作成する。</li> </ul>  | 中世の特色を大きくとらえ、中世以前との違いに着目しながら、意欲的に追究している。(新聞)                      |   | 自分の作成した記事に対して、他の生徒が興味をひき、かつその内容記事を簡潔に表現している見出しを作成することが出来る。(新聞)    |  |

(4) 展開

|                | 配時 | 学 習 活 動  | 指導上の留意点  | 支援 (★) 評価 (◎)<br>【評価方法】 活用の場   |
|----------------|----|--|--|--|
| つかむ            | 5  | 1. 前時に学習した元寇について復習する。<br>・フビライ=ハン<br>・北条時宗<br>・文永、弘安の役   | ・前時の学習を思い出させながら、発表させる。<br>・スクリーンに映し出しながら確認する。  |  |
| 考える<br><br>深める | 35 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     元の襲来は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのだろうか。                 </div> 2. 元寇の後、御家人の生活がどのように変わったのか『徳政令』をもとに考える。「幕府はなぜ徳政令を出したのでしょうか。根拠をもとに発表しましょう。」<br>・戦のときの武士の鎧や兜は自分で買わなくてはならない。<br>・北九州で元寇が行われているので、そこまでの旅費にお金がかかる。<br>・防塁を作るための費用を出している。<br>・<br>3. 学習活動2を参考に、御家人の立場と幕府の役人の立場で、それぞれの吹き出しに書き込む。【ワークシート①】<br>(御家人)<br>元寇でがんばって戦ったのに、このままほうびの土地がもらえなかったら、生活ができなくなります。<br>(幕府)<br>守るだけの戦で、新しい土地を得ることができなかったのも、ご恩として出す土地がないのだ。<br>(御家人)<br>もしご恩がもらえないのなら、これからは幕府に何かあっても戦に参加しませんよ。<br>(幕府)<br>何とかするのでもうしばらく待ってくれ。 | ・資料を全員で確認するために、スクリーンに映す。<br>・いろいろな考えを出すためグループで考えさせる。<br>・考えることができない生徒には、前時の学習を振り返るよう助言する。<br>・資料集49ページから読み取らせる。<br>・発表の型のプリントを参考にし、発表してもよい。<br>・ペアで、御家人の立場、幕府の立場にわかれて、自分たちが書いたものを言い合う。上手にまとめているペアに発表させる。 | 資料をもとに、自らの考えを表現することができる。<br>◎元寇が鎌倉幕府に及ぼした影響について、資料を読み取り自分の意見をまとめることができる。<br>(技能・表現)<br>【発言・ワークシート】<br>★考えがまとまらない生徒は、学習活動2を振り返り考えさせる。 |
| まとめる           | 10 | 4. 「幕府の信頼度グラフ」を記入し、本時をまとめる。【ワークシート②】<br><br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     御家人の立場から<br/>                     ・元寇の恩賞がもらえなかった御家人の不満が大きくなった。<br/>                     幕府の立場から<br/>                     ・新しい領地を獲得していないので、恩賞をあげたくてもあげることができない。<br/>                     御恩と奉公の関係がくずれてしまった→幕府滅亡へ                 </div>  | ・生徒が発表した言葉を使いまとめる。   |  |